

五島中央病院ニュース

病院の理念

五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします。

目標

- 一、患者様中心の医療
- 二、安全な医療
- 三、質の高い医療
- 四、健全なる経営
- 五、救急医療の充実

基本方針

- 一、患者様にわかりやすい言葉で説明します。
- 二、検査や治療については患者様の同意を得て実施するように努めます。
- 三、医療水準の向上に努めます。
- 四、病診連携、保健・福祉機関との連携に努めます。

目次

- 1 外科より
- 2 放射線科より

1. 外科より

五島中央病院は福江島、久賀島、奈留島などの下五島において、外傷、疾病などで必要とされる外科治療を担う重責を負った病院であります。その中で当科の方針としては、「五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院をめざします」という当院の理念に従って、安全・安心な診療を今まで同様に継続していくこと、そしてたとえ離島であっても日進月歩で進化していく現代医療に遅れることなく、安全にかつ進歩していく外科診療を目指しています。今回、地域五島中央病院における外科業務について御紹介させていただく機会を頂戴いたしましたので、少々お見知りおきいただくことで皆様のご理解を頂けたら幸甚に存じます。

①手術

頸部、胸部、腹部外科を中心に手術による治療を行っています。詳細として下記列挙致します。

【頸部】

甲状腺手術、リンパ節摘出など。

【胸部】

乳癌などでの乳房温存手術、胸筋温存手術など
食道癌などでの食道全摘・再建術
肺癌などでの肺切除術、
気胸での胸腔鏡下嚢胞切除術
胸腺腫などの胸腺摘出
魚骨などの食道異物摘出
胸壁外傷での修復術。

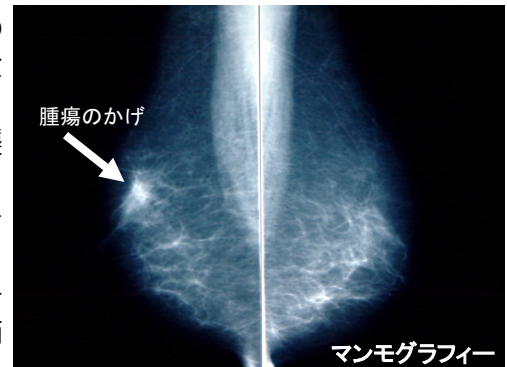
【腹部】

胃癌などの胃切除、胃全摘術
胃十二指腸潰瘍手術
肝腫瘍などでの肝切除術
胆石などでの胆嚢摘出術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、総胆管結石手術や肝内結石症手術
胆管腫瘍などでの胆管切除・再建術
膵臓腫瘍などでの膵頭十二指腸切除術、膵体尾部切除術、膵分節手術、腫瘍核出術、膵臓摘出術
腸閉塞などでの小腸切除
虫垂炎などでの虫垂切除術
大腸癌などでの大腸切除、腹腔鏡下大腸切除、人工肛門（ストマ）造設術、人工肛門閉鎖
切れ痔、いぼ痔など痔疾での根治術
小児を含めた脱腸での鼠径・大腿ヘルニア根治術。
経口摂取困難な方への胃瘻、腸瘻造設術
化学療法などでの点滴カテーテル留置
まだこれ以上の手術に対応可能であります。



手術に関する最近のトピックスとして、乳癌の早期発見をめざしてマンモグラフィー（レントゲン写真）での検出が日本全国で広まっており、当科でも2名の「マンモグラフィー読影専門医」が常勤しています。早期発見とともに治療として低侵襲や、手術前後の化学療法を手がけています。乳がんは30代から注意が必要ですので市町村検診や自己検診はもちろん不安を感じたら乳腺外来の受診をお勧めいたします。

もう一つの話題としては鏡視下手術といわれる、カメラと鉗子を用いたキズの小さな手術が当科で可能になりました。胆嚢摘出術は以前より導入されていましたが、最近では大腸の手術も腹腔鏡カメラと専用の機械（鉗子）で大腸癌の手術を安全に施行しております。キズが小さいほど体力のダメージも少なく、入院期間も長く必要とされないことが報告されており、高齢者などにも利点があると考えられています。今後は胃や肝臓、膵臓、脾臓などの実質臓器の疾病にも応用可能になる予定になっています。



②化学療法

病気による手術の場合、良性の疾患であれば手術による治療で大方の治療が終了しますが、悪性である場合、手術後も5年、10年と再び悪化していないかを見張っていくことが必要になります。残念ながら再発や再発が疑わしい場合、詳細な手術時の情報、画像診断をもとに、その後の治療法を検討する必要があります。そのひとつとして化学療法、いわゆる抗がん剤治療があります。外科では主に消化器（胃・大腸・肝臓・胆管・膵臓）がん、乳がんに対して積極的に化学療法を施行しています。最近では化学療法も進歩が著しい分野であり、使用される抗がん剤も以前とは異なり、副作用の軽減、効果の改善が期待できる薬剤を当科では用いることができます。当科に常勤する「がん治療認定医」の指導のもと薬剤部と連携して日本国内で使用可能となった新規抗がん剤を可能な限り早期に導入し、以前より良好な治療効果を得はじめています。これからも種々の新規抗がん剤を積極的に検討し、たとえ再発・進行した悪性疾患のかたも不安の和らいだ毎日が過ごせる一助となるよう知見を深めていきたいと思っています。

③研修医・学生

当科スタッフは副院長以下4名です。この常勤4名のほかに、外科病棟、手術室で業務をともにするものとして、当院研修医、長崎大学学生があります。研修医は当科を6か月経験することで外科系の基本的な診療を学びます。また、長崎大学との連携により長崎大学医学部学生、いわゆる「医師のたまご」が病棟業務を中心に離島医療を学びます（4～7月）。いずれも五島に学ぶ、また将来の五島の支えとなるスタッフですので、何卒ご理解、ご協力の程をお願い申し上げます。

以上、外科はおもに手術による治療を行う診療科であり、手術に関連した術後の診療をカバーしております。診断、手術、術後治療という一連の業務において当科が十分に機能させて頂いているのは、病気の診断や内視鏡検査・治療を行う内科や放射線科をはじめとした他の診療科の医師・看護師・検査技師・病院スタッフとの協力の賜であります。来院される皆様にはいろいろなスタッフに接してもらうこととなりますが、どうぞご理解を頂けますようお願いいたします。また、お気づきの点がございましたらどうぞ御指南頂き、いたらぬ点は積極的に改善して皆様のお力になれるよう努力を続けていく所存です。今後とも宜しくお願いいたします。



2. 放射線科より

五島市の皆様こんにちは、五島中央病院の放射線科についてご紹介いたします。

放射線科はX線写真、CT(X-ray Computed Tomography)、MRI(Magnetic Resonance Imaging)、超音波検査(エコー)等の各種画像診断と、IVR(後述)を行っています。

近年の画像診断技術の発展は著しく、特にCTやMRIなどの高度画像診断機器の登場以来、画像診断は医療に強いインパクトを与えてきました。現在、高度な医療を行うためには、病気の診断やその広がりを精度高く判断することが必要であり、画像診断は医療に欠かせないものになっています。

画像診断医について

画像診断専門医は日本医学放射線学会の画像診断専門医試験に合格した医師で、放射線被曝の安全性と防護、MRIの安全性、各種画像の特性と適応、画像診断に必要な画像解剖や病理、画像診断報告書作成について専門のトレーニングを受けています。

画像診断を専門とする放射線科医は、内科、外科などの各診療科からの依頼に応じて画像検査を施行し、撮影された画像を評価してその報告書を作成しています。日々発展する高度な画像診断機器の性能をできるだけ引き出して検査を行い、頭部、胸部、腹部、骨関節など全身各部位の画像診断を行い、病気の診断と治療方針の決定に重要な役割を担っています。

画像診断を支えるスタッフ

放射線科医は診療放射線技師、放射線科看護師とチームを組んで診療をしています。

診療放射線技師は各種画像検査において、患者さんの協力を得ながら、放射線被ばくを始めとする安全性に十分注意を払って撮影を行っています。また、装置が正常に働くように整備や管理を行っています。

放射線科看護師は、画像検査を受ける患者さんの身体的負担や精神的負担が少しでも軽減するよう介助をしています。

放射線科の業務で代表的なCT、MRI、IVRについて少し詳しく紹介します。

CTとは

CT装置とは、X線管球が身体の周りを回転して、その情報をコンピュータ解析し、身体の輪切り像を作り出す装置です。脳出血の検出、肺癌をはじめとする様々な肺疾患の検出、肝臓癌、膵癌などの腹部腫瘍の検出、外傷時の出血部位の同定などに極めて優れた能力を発揮します。現在では、1999年に登場したマルチスライスCTが一般的で、当院にも導入されています。マルチスライスCTの特徴は、撮影が高速なため、短い息止め時間で広範囲に高い精度の撮像ができることです。マルチスライスCTの登場により、画像診断におけるCTの有用性は劇的に向上しました。

造影剤を使用しないで撮影する単純CT検査と、造影剤を静脈注射して行う造影CT検査があります。疾患によっては造影CTが必要であり、造影剤を使用することにより、病変の存在、形態や性状などがより詳しく描出されます。検査時間は検査内容により異なりますが、5分から15分ぐらいです。

検査を受けられる患者様は、検査部位にある金属類は検査の妨げになりますので取り外し、検査衣に着替えていただきます。検査中はベッドに仰向けに寝ていただき、身体を動かさないで下さい。呼吸停止の合図がある場合には、その声に従って下さい。また、妊娠の可能性がある方は必ずお申しつけ下さい。ヨード造影剤のアレルギーや気管支喘息がある方は、原則として造影剤を使用できません。



CT装置

MRIとは

MRI (Magnetic Resonance Imaging : 磁気共鳴画像)とは、磁力と電磁波の力によって、人体のあらゆる部分の断面像を撮ることができる画像診断装置です。頭から足先まで全身を高い精度で検査することができます。CT装置とは異なった情報が得られ、検査にX線は使用しないので放射線被曝の心配がありません。急性期脳梗塞をはじめとする脳疾患、脊椎や膝関節などの骨軟部疾患の診断などに優れた能力を発揮します。

検査を受けられる患者様は、筒型（奥行き方向に170cm程度）の装置の中に寝ていただきます。造影剤を使用しないで撮影する単純MR検査と、造影剤を静脈注射して行う造影MR検査があります。検査時間はCT検査に比べると長く、20分から1時間程度で、検査部位により異なります。

検査を受けられる患者様は、磁場の中での検査ですので金属類は取り外し、検査衣に着替えていただきます。検査中はベッドに仰向けに寝ていただき、身体を動かさないで下さい。呼吸停止の合図がある場合には、その声に従って下さい。体の中に金属がある方は検査前に必ずお申しつけ下さい。心臓ペースメーカーや刺青のある方は検査ができません。また、妊娠の可能性がある方も必ずお申しつけ下さい。MRI用の造影剤アレルギーや気管支喘息がある方は、原則として造影剤を使用できません。



IVRとは

Interventional Radiology (IVR)とは、画像診断（X線透視装置、超音波、CT、MRIなど）を施行しながら、主にカテーテルテクニック、または穿刺術を利用した治療のことです。体内の状態をリアルタイムに観察しながら、針やカテーテルを血管や胆管・消化管などの臓器にすすめ、そこで病変部の治療を行います。

次号は**整形外科と看護部**を紹介予定です

以上、放射線科の業務について紹介しました。五島中央病院に設置されているCT、MRなどの高度画像診断機器は、地域の開業医の先生にも、画像検査目的に患者様をご紹介いただき、活用していただいています。適切な検査を行い、質の高い報告書を作成することにより、五島市における画像診断センターとしての役割を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新任紹介

五島市の皆様、はじめまして。この10月に赴任しました放射線科医の西田暁史です。出身は長崎市で、この度はじめて五島に赴任しました。五島をドライブしてみると、美しい自然がたくさんあり、とても気に入りました。

画像診断専門医として、各種画像診断機器を駆使し、全身のあらゆる疾患の診断を行います。患者様に直接お目にかかる機会は少ないかもしれませんが、各診療科の専門医と連携して皆様の治療のお役にたてるよう努力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



西田暁史先生(右下2番目)と放射線技師